

# St. Moritz

## 2005年度倶知安町スポーツ交流 (スキーインストラクター交流)事業 参加報告書

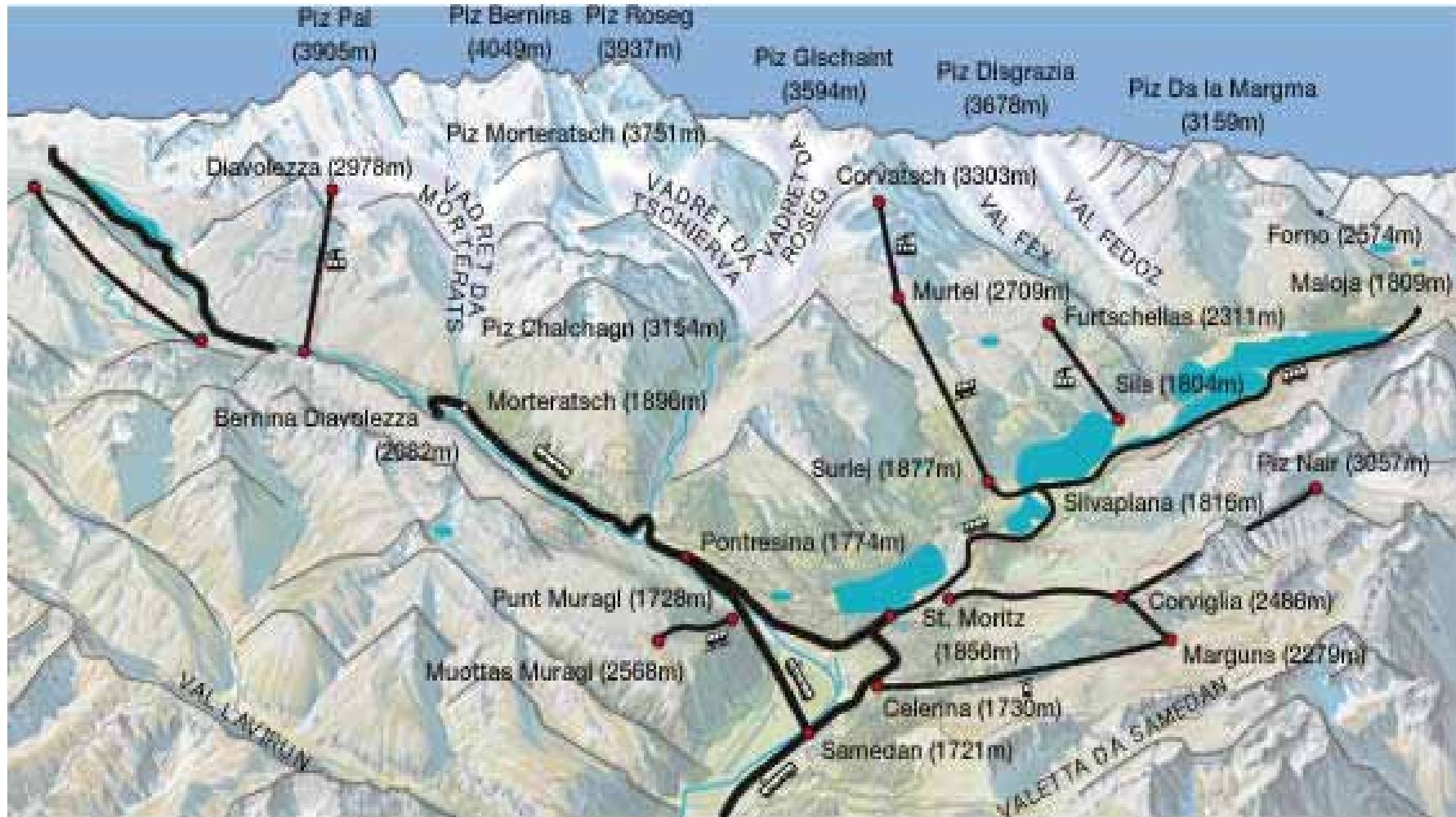
在倶知安サンモリッツ通信員  
九津見真由美

## 2005年度倶知安町スポーツ事業参加 工程表

- 日程 2005年2月25日(金)~ 3月16日(水)
- 研修工程
  - 2月25日(金)新千歳空港発
  - 2月26日(土)サンモリッツ着
  - 2月26日(土)~ 3月11日(金) ホームステイ・スキー学校視察
  - 3月11日(金)~ 3月13日(日) サンモリッツ市内、カールトンホテル宿泊
  - 3月13日(日)~ 3月15日(火) チューリッヒ市内、マリオットホテル宿泊
  - 3月15日(火) チューリッヒ発
  - 3月16日(水) 成田着



美しい森と湖、ベルニナアルプスの名峰に囲まれたサンモリッツは、爽やかな高地気候と晴天に恵まれたマウンテンリゾート。世界のVIPが集う高級リゾートでもあり、5ツ星ホテルや有名ブランドショップが建ち並んでいます。また二度の冬季オリンピックやスキーワールドカップを開催するなどウィンタースポーツのメッカとしても有名。四季を通してハイキングやサイクリング、ゴルフ、ヨット、乗馬など多彩なアクティビティが楽しめます。サンモリッツの周辺には、素朴な村が点在する個性的な谷、万年雪と氷河の待つベルニナ山群の名峰、神秘的な湖など魅力は尽きません。グレッシャー・エクスプレスやベルニナ・エクスプレスなど人気パノラマ路線の発着点でもあり、小旅行の拠点として最高の条件を兼ね備えています。



私が視察したスキー学校は、標高3303mのクロワッチという山にあり、2本のロープウェイを乗り継ぎピークまで行くことができます。そのクロワッチスキー場の一番下にあるのが、クロワッチスノースポーツで、スキーとスノーボードの学校です。今回は2週間毎日、子供のスキースクールと一緒に参加させていただき、6段階にわかれているスキースクールを体験しました。それ以外にも個人でスキーの指導もさせていただきました。



スイス周辺のイタリア、ドイツ、フランスなどから毎日たくさんの子供がスキースクール入校します。家族の滞在期間によりませんが、1週間くらい習うことが多いようでした。多くのインストラクターは、スイス語(地元で話されるドイツ語に近いもので、ロマーニッシュ語とは違います)、ドイツ語、イタリア語、フランス語、英語と5つの言葉を話すことができます。大人は共通の言葉として英語を話す人も多いのですが、子供は自分の母国語しか話せない子がほとんどです。



掲示板にレベルごとのインストラクターの名前が貼り出されます。これは1週間ごとに交代されるようです。レベル1から6まで、1が初心者、6は上級者となります。





レベル2の子供たちが輪を使って練習をしている様子です。インストラクターは子供が楽しく練習できるように、いろいろな道具を使いながらレッスンの工夫をします。レベル2以上の子供は、午前中一番下の緩やかな斜面で基礎的な練習をした後、午後は中間のロープウェイを使い、長い距離のスロープに挑戦します。午前と午後に2時間ずつのレッスンがあります。それぞれのレッスンの中ほどで約15分間の休憩を専用の休憩室でとります。



これは休憩室でインストラクターが子供達にジュースとクッキーを配っているところです。小さな小屋の中には、小さなキッチンもあり、使ったコップなどを洗うことができます。





コルワッチスキー場の頂上は標高  
3303mあります。  
ロープウェイを2本乗り継いで行くこ  
ができます。

このロープウェイは、時間帯にもよ  
りますが約10分から15分おきに出発  
します。





頂上にある、カフェです。イグルーの住居をイメージしているのでしょうか。

これは、1本目のロープウェイを降りた山の中腹にあるレストランです。太陽が少しでも覗いていると、大勢の人達が外のテーブルでビール等を飲みながら食事を楽しみます。





サンモリッツ市長のバルトウ氏と  
サンモリッツスキー場で。

サンモリッツ市長バルトウ氏と  
サンモリッツ観光局長ダヌーザー氏  
と一緒に。





雪が少ないので、この降雪機を使って、人工雪を降らせます。今年は特に雪が少なかったそうで、斜面はどこもアイスバーンでした。



## 編集後記



今回のスポーツ交流事業に参加させていただき、3週間有意義な時間を過ごすことができ、ありがとうございました。夏の旅行とは違い、衣類などの荷物が多いうえに、スキー、スキーブーツ、スキーウェア一式を持っていくのはとても大変な事でしたが、それも又良い経験になりました。

英語を話すことができれば大丈夫と思っていたのに、あるレストランでは、全くお店の人が英語を理解できず、私は相手のイタリア語(サンモリッツはイタリアに近いので、イタリア人がたくさん働いています)が理解できず、思っていたものとはまるで違うものが出てきたという笑い話のようなことがありました。英語が必ずしも世界共通語ではないということを実感し、大変勉強になりました。

また、どこに行っても親切な人々ばかりで嫌な思いをすることがなく、おもてなしの心が行き届いている印象を受けました。どちらかという、観光客は年齢層が高いような感じでした。日本もこれから高年齢社会になっていきますので、今後も、ニセコのスキー場のあり方を、サンモリッツに学び、ますます発展していくよう倶知安住民として、またサンモリッツ通信員としてもお手伝いできればと思っています。

今回の交流事業により、スイス人の家庭に2週間お世話になり、その生活に直接触れることができました。また、本場のスキーインストラクターの仕事も経験させていただきました。このような貴重な体験を通し、学生時代のスイス観光旅行で得たものとは比べ物にならないほどより深くスイスを理解することができたと思います。そのような経験をさせて頂いたことに深く感謝いたします。

サンモリッツでの日常生活につきましては、今後広報誌くっちゃん、順次写真と共に紹介して行く予定です。

九津見真由美